

事後評価結果（平成16年度）

担 当 課：九州地方整備局道路部道路計画第一課
担当課長名：富山 英範

事業名	一般国道 針尾バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局	
起終点	自：長崎県佐世保市大塔町 至：長崎県佐世保市南風崎町	延長	5.9 km			

事業概要

一般国道205号は、長崎県佐世保市を起点とし、長崎県東彼杵郡東彼杵町に至る延長約23kmの主要幹線道路であり、一般国道34号、35号と併せて広域ネットワークを形成し、県北地域の社会、経済、文化、産業、観光等の振興を図る上で重要な路線である。針尾バイパスは、佐世保市大塔町から同市南風崎町に至る延長5.9kmのバイパスである。

事業の目的・必要性

針尾バイパスは、西九州自動車道と連結し佐世保市南部の交通混雑の緩和、高速道路アクセス向上、地域の核となる佐世保市の地域活性化、沿道環境改善などに寄与するものである。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	S 4 8年度	用地着手	S 5 2年度	供用年	(当初) - / -	変	動 倍 倍 %
		都市計画決定	S 5 2年度	工事着手	S 5 4年度	(暫定/完成)	(実績) H 1 2 / -	動	
	事業費	計画時 暫定/完成	(名目値) / 300億円 (実績値) / 億円	実績 暫定/完成	(名目値) 261 / - 億円 (実績値) 278 / - 億円	変	動		
交通量 (当該路線)	計画時 暫定/完成	/	台/日	実績 暫定/完成	32,447	台/日	変	動	
旅行速度向上	(供用前現道 当該路線)	10.5	27.1	km/h	交通事故減少	(供用前現道 供用後現道)	(供用直前年次) 年度	(供用後年次) 年度	件/億台キロ
費用対効果 分析結果 (事後)	B / C	7.2	総費用	4.44 億円	総便益	3.179 億円	基準年	H 1 6年	
事業遅延によるコスト増	費用増加額	億円		便益減少額	億円				
事業遅延の理由									
客観的評価指標に対応する事後評価項目									
交通混雑の緩和 ・西九州自動車道の武雄佐世保道路と連絡する針尾バイパス整備により、佐世保市街方面や福岡・佐賀方面と県南方面を結ぶ交通を分散し、早岐地区の混雑緩和に寄与。 (早岐地区の旅行速度；整備前10.5km/Hから整備後27.1km/Hに向上) 高速道路へのアクセス向上 ・針尾バイパスを利用することにより佐世保大塔ICへの所要時間が短縮 (西彼町から7分短縮、川棚町から8分短縮)									

	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>地域活性化プロジェクトの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿線の住宅開発、大規模商業施設、流通業務施設、文教施設の立地など、地域の活性化に貢献。 ・「長崎オランダ村(S58年7月開園)」「ハウステンボス(H4年3月開園)」など長崎県の目玉となる観光拠点が開発され、日曜・祭日などには観光客で賑わう。 <p>その他、通勤圏域の拡大、商圈の拡大、救急医療の支援等について、効果の発現が見られる。</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>針尾バイパスの整備進捗に伴い、沿線の住宅開発や大型小売店の出店が進むとともに、バイパス利用台数が急増し、交通混雑や誤進入などの問題が発生したため、4車線化等の改良を施し改善されている。</p>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <p>佐世保市の人口は減少しているものの、市南部と周辺町村の人口増加が見られる。佐世保市の基幹産業である輸送の落ち込みが著しいものの、平成8年以降の大型店舗出店により商品販売額の県内シェアが昭和60年レベルに戻っている。</p>
	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>混雑緩和、佐世保市の地域活性化、通勤圏の拡大向上など所要の効果を発現しているため、暫定2車線としての事業については、さらなる事後評価の必要はない。</p> <p>供用効果が利用者に周知され現状の交通量も多く、また、県北地域の核である佐世保市の活性化など地域にとって重要な役割を果たしており、暫定改良として直ちに改善措置を執る必要はない。</p>
	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>事業効果を説明する上で、直接効果と同様、間接効果として社会経済への影響も見逃せないものがある。今回のケースも工業団地、住宅、観光施設等の開発プロジェクトの支援効果も大きく、高い事業効果がでていいると思われ、これらの評価を適切に表現できるような分析手法の工夫が必要である。</p>
	<p>特記事項</p>

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものを。